

**プロジェクト⑥ ゲリラ豪雨・竜巻等の
突発的自然災害の予測技術向上と
確実な情報伝達による安全・安心の確保**

**平成26年11月13日
リーダー府省 内閣府(科技)**



プロジェクトのコンセプトと取組

- オリンピック・パラリンピック来訪者の安全・安心を確保するうえで、ゲリラ豪雨等の極端気象に係る災害情報を、正確かつ時間的な余裕をもって提供することが、安全な大会運営および来訪者の滞在に重要。
- 本プロジェクトでは、数十秒間隔で気象を観測できる次世代気象観測装置等の利活用により、ゲリラ豪雨を発生前に予測し、局所的大雨の降雨地域や都市浸水地域を予測する技術を開発。
- 降雨や浸水地域の予測結果は、東京都が発出する避難警告や避難指示に活用するとともに、観客・選手の避難や、屋外競技の中断・再開等の大会主催者の判断にも活用するほか、鉄道等の交通機関の運行情報へ活用し、観客等を混乱なく誘導。なお、具体的な情報提示方法等は今後関係機関との調整が必要。

SIP防災「豪雨竜巻」成果の活用

担当機関: 情報通信研究機構・大阪大学・東芝・防災科学技術研究所・日本気象協会・鉄道総合技術研究所・埼玉大学・国土技術政策総合研究所

5年間での達成目標

豪雨災害等の量的予測

首都圏で実証実験予定

豪雨の短時間予測

竜巻予測の高度化

災害レジ
リエンス
情報NW

社会実装

- ・河川管理者利用
- ・鉄道事業者利用
- ・自治体利用
- ・課題④⑤利用

実利用

SIP後



3年度までの主要目標

豪雨発生アラート(質的予測)

● MP-PAR 完成

- フェーズドレイ気象レーダの実証実験
関西域の自治体連携によるアラート発信実証

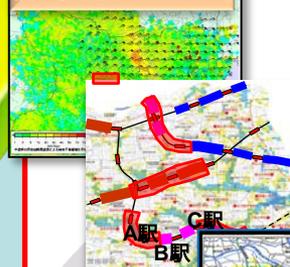
- MP-PAR利用による予測システムのアップグレード
- 応用対象の拡大(浸水、氾濫予測に加えて土砂災害情報の追加)

MP-PAR利用による連携



豪雨に伴う鉄砲水の警告

防災機関向けwebサイト



鉄道浸水予測範囲

都市域の氾濫シミュレーション



MPLレーダの
利用による連携

- 予測技術の実証実験
豪雨情報の配信と関係機関・自治体利用実証
- 鉄道における浸水予測
鉄道事業者への情報提供(運転規制、列車退避支援システム)
- 河川水位・氾濫予測
モデル流域・河川でのリアルタイム予測システム

大会に向けた実証実験

【課題】首都圏における実証実験の体制づくり

→東京都、大会組織委員会、関係省庁、鉄道事業者、河川管理者等(案)にご協力頂く体制(調整中)

実証実験内容(案)

- 豪雨情報の配信と関係機関・自治体利用実証
- 鉄道事業者への情報提供
- 河川管理者への情報提供
- 大会組織委員会への情報提供

プロジェクトスケジュール(予定)

